

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

セフェム系抗生物質製剤

セフトリアキソンNa 静注用0.5g「サワイ」 セフトリアキソンNa 静注用1g「サワイ」

CEFTRIAXONE Na

注射用セフトリアキソンナトリウム

剤形	注射剤(結晶性粉末製剤)
製剤の規制区分	処方箋医薬品※ ※注意－医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	静注用0.5g：1バイアル中日局セフトリアキソンナトリウム水和物 0.5g(力価)含有 静注用1g：1バイアル中日局セフトリアキソンナトリウム水和物1g (力価)含有
一般名	和名：セフトリアキソンナトリウム水和物 洋名：Ceftriaxone Sodium Hydrate
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日：2012年2月6日 薬価基準収載年月日：2012年6月22日 発売年月日：2009年11月13日(静注用0.5g) 2002年9月30日(静注用1g)
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：沢井製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	沢井製薬株式会社 医薬品情報センター TEL：0120-381-999、FAX：06-6394-7355 医療関係者向け総合情報サイト： https://med.sawai.co.jp/

本IFは2020年12月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」(以下、「IF記載要領2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	21
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	21
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	21
II. 名称に関する項目	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	21
1. 販売名	3	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	21
2. 一般名	3	5. 慎重投与内容とその理由	21
3. 構造式又は示性式	3	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	21
4. 分子式及び分子量	3	7. 相互作用	22
5. 化学名(命名法)	4	8. 副作用	22
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	4	9. 高齢者への投与	24
7. CAS登録番号	4	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	25
III. 有効成分に関する項目	5	11. 小児等への投与	25
1. 物理化学的性質	5	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	25
2. 有効成分の各種条件下における安定性	5	13. 過量投与	25
3. 有効成分の確認試験法	5	14. 適用上の注意	25
4. 有効成分の定量法	6	15. その他の注意	25
IV. 製剤に関する項目	7	16. その他	26
1. 剤形	7	IX. 非臨床試験に関する項目	27
2. 製剤の組成	7	1. 薬理試験	27
3. 注射剤の調製法	8	2. 毒性試験	27
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	8	X. 管理的事項に関する項目	28
5. 製剤の各種条件下における安定性	8	1. 規制区分	28
6. 溶解後の安定性	9	2. 有効期間又は使用期限	28
7. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	10	3. 貯法・保存条件	28
8. 生物学的試験法	11	4. 薬剤取扱い上の注意点	28
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	11	5. 承認条件等	28
10. 製剤中の有効成分の定量法	11	6. 包装	28
11. 力価	11	7. 容器の材質	29
12. 混入する可能性のある夾雑物	12	8. 同一成分・同効薬	29
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	12	9. 国際誕生年月日	29
14. その他	12	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	29
V. 治療に関する項目	13	11. 薬価基準収載年月日	29
1. 効能又は効果	13	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	29
2. 用法及び用量	13	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	30
3. 臨床成績	14	14. 再審査期間	30
VI. 薬効薬理に関する項目	16	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	30
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	16	16. 各種コード	30
2. 薬理作用	16	17. 保険給付上の注意	30
VII. 薬物動態に関する項目	18	XI. 文献	31
1. 血中濃度の推移・測定法	18	1. 引用文献	31
2. 薬物速度論的パラメータ	18	2. その他の参考文献	31
3. 吸収	19	XII. 参考資料	32
4. 分布	19	1. 主な外国での発売状況	32
5. 代謝	19	2. 海外における臨床支援情報	32
6. 排泄	20	XIII. 備考	32
7. トランスポーターに関する情報	20	その他の関連資料	32
8. 透析等による除去率	20		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

セフトリアキソンNa静注用0.5g/静注用1g「サワイ」は、日局セフトリアキソンナトリウム水和物を含有するセフェム系抗生物質製剤である。

グラム陽性球菌からグラム陰性桿菌にわたる広範囲な抗菌スペクトルと強い抗菌力を有する、いわゆる第3世代の注射用セフェム系抗生物質の開発研究が世界各国で競われたが、1980年に発表されたセフトリアキソンナトリウム水和物は、血中濃度半減期が極めて長いことが注目された。¹⁾

本剤は、後発医薬品として下記通知に基づき、規格及び試験方法を設定、安定性試験を実施し、承認を得て上市に至った。

	セロニード静注用0.5g (旧販売名)	セロニード静注用1g (旧販売名)
承認申請に際し準拠した 通知名	平成11年4月8日 医薬発第481号	
承認	2009年7月	2002年3月
上市	2009年11月	2002年9月

セロニード静注用1gは、2004年9月に再評価結果が公表され、効能・効果、用法・用量が変更された。(X. -13. 参照)

また、セロニード静注用1gは、2009年4月に用法・用量の一部変更承認が認められ、小児への1日1回投与の用法・用量が追加承認された。(X. -12. 参照)

セロニード静注用0.5gは、「後発医薬品の必要な規格を揃えること等について」(平成18年3月10日付 医政発第0310001号)に基づき、上市に至った。

2012年6月に「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号)に基づき、それぞれ『セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」』及び『セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」』に販売名を変更した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- 1)セフトリアキソンナトリウムは、1日1回投与が可能な長時間作用型の第3世代セフェム系抗生物質である。
- 2)好気性および嫌気性のグラム陽性菌・陰性菌に対して広範囲で強い抗菌力を示す。特にグラム陰性桿菌の大腸菌、インフルエンザ菌、セラチア属などに対して強い抗菌力を示す。また、グラム陽性球菌のレンサ球菌属、肺炎球菌などに対しても強い抗菌力を示す。
- 3)細胞壁ペプチドグリカン架橋形成を阻害し、殺菌的に作用する。¹⁾
- 4)各種の病原細菌が産生するβ-ラクタマーゼに対して安定である。¹⁾
- 5)マウス実験的全身感染モデルに対する治療実験において、標準製剤と比較し同等の抗菌作用を有することが確認された。(VI. -2. 参照)²⁾
- 6) *in vitro*におけるセフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」の抗菌活性が確認されている。(VI. -2. 参照)^{2, 3)}

I. 概要に関する項目

7) 重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー、汎血球減少、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、溶血性貧血、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、急性腎障害、間質性腎炎、偽膜性大腸炎、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis : TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens - Johnson症候群)、急性汎発性発疹性膿疱症、間質性肺炎、肺好酸球増多症(PIE症候群)、胆石、胆嚢内沈殿物、腎・尿路結石、精神神経症状が報告されている(頻度不明)。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

1) 和名

セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」

セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」

2) 洋名

CEFTRIAXONE Na

3) 名称の由来

通知「平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号」に基づき命名した。

2. 一般名

1) 和名(命名法)

セフトリアキソンナトリウム水和物(JAN)

2) 洋名(命名法)

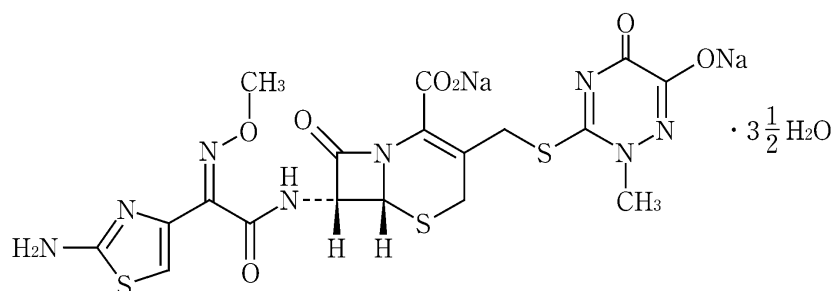
Ceftriaxone Sodium Hydrate(JAN)

Ceftriaxone(INN)

3) ステム

cef- : cephalosporanic acid系の抗生物質

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₁₈H₁₆N₈Na₂O₇S₃ · 3 $\frac{1}{2}$ H₂O

分子量 : 661.60

II. 名称に関する項目

5. 化学名(命名法)

Disodium (6*R*, 7*R*)-7-[(*Z*)-2-(2-aminothiazol-4-yl)-2-(methoxyimino)acetylamino]-3-(6-hydroxy-2-methyl-5-oxo-2,5-dihydro-1,2,4-triazin-3-ylsulfanylmethyl)-8-oxo-5-thia-1-azabicyclo[4.2.0]oct-2-ene-2-carboxylate hemiheptahydrate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名：セフトリアキソンナトリウム
略号：CTRX

7. CAS登録番号

104376-79-6 [Ceftriaxone Sodium Hydrate]
73384-59-5 [Ceftriaxone]

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

1) 外観・性状

白色～淡黄白色の結晶性の粉末である。
無臭である。¹⁾

2) 溶解性

水又はジメチルスルホキシドに溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくく、アセトニトリルにほとんど溶けない。
本品 1 gは水約 2 mL、メタノール約 45 mLに溶ける。その他の溶媒に対する溶解性：アセトン、酢酸エチル、ジエチルエーテル、クロロホルムにほとんど溶けない。¹⁾

3) 吸湿性

水分：8.0～11.0% (0.15g、容量滴定法、直接滴定)

4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

融点(分解点)：159℃付近より黄変開始。300℃まで明らかな融点ないし分解点を示さない。⁴⁾

5) 酸塩基解離定数

pKa：1.72(カルボキシル基)、3.15(アミノチアゾール基)、4.34(トリアジノン基)⁴⁾

6) 分配係数

1.26×10^{-4} ⁵⁾

7) その他の主な示性値

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$ ：-153～-170° (脱水物に換算したものの50mg、水、2.5mL、20mm)

比吸光度 $E_{1cm}^{1\%}$ (241nm)：約520[本品の水溶液(1→100000)]¹⁾

pH：本品0.6gを水 5 mLに溶かした液のpHは6.0～8.0である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

保存条件：遮光して保存する。

3. 有効成分の確認試験法

日局「セフトリアキソンナトリウム水和物」の確認試験に準ずる。

- 1) 紫外可視吸光度測定法
- 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法
- 3) ナトリウム塩の定性反応

Ⅲ. 有効成分に関する項目

4. 有効成分の定量法

日局「セフトリアキソンナトリウム水和物」の定量法に準ずる。(液体クロマトグラフィー)

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

1) 剤形の区別、外観及び性状

品名	セフトリアキソンNa静注用 0.5g「サワイ」	セフトリアキソンNa静注用 1g「サワイ」
有効成分 ・含量	1バイアル中 日局セフトリアキソンナトリウム水和物0.5g(力価)	1バイアル中 日局セフトリアキソンナトリウム水和物1g(力価)
剤形・性状	白色～淡黄白色の結晶性の粉末 用時溶解して用いる注射剤	白色～淡黄白色の結晶性の粉末 用時溶解して用いる注射剤

2) 溶液及び溶解時のpH、浸透圧比、粘度、比重、安定なpH域等

品名	セフトリアキソンNa静注用 0.5g「サワイ」	セフトリアキソンNa静注用 1g「サワイ」
pH	6.0～8.0[100mg(力価)/mL溶液]	
浸透圧比*	1.2～1.5[100mg(力価)/mL注射用水]	約1.3[100mg(力価)/mL注射用水]

(※：生理食塩液に対する比)

3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類

該当しない

2. 製剤の組成

1) 有効成分(活性成分)の含量

●セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」

1バイアル中に日局セフトリアキソンナトリウム水和物0.5g(力価)を含有する。

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」

1バイアル中に日局セフトリアキソンナトリウム水和物1g(力価)を含有する。

2) 添加物

含有しない

3) 電解質の濃度

●セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」

1バイアル中、セフトリアキソンナトリウム水和物としてNaを約41.45mg(約1.80mEq)含有する。[理論値]

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」

1バイアル中、セフトリアキソンナトリウム水和物としてNaを約82.91mg(約3.61mEq)含有する。[理論値]

4) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

IV. 製剤に関する項目

5) その他

該当資料なし

3. 注射剤の調製法

・ [静脈内注射]

静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。

[点滴静注]

点滴静注に際しては補液に溶解して用いる。^{注)}

注) 点滴静注を行う場合には、注射用水を用いないこと(溶液が等張にならないため)。また、点滴静注は30分以上かけて静脈内に注射すること。

・ **調製方法**：溶解後は速やかに使用すること。特にグルタチオン製剤、高濃度アミノ酸類の補液に溶解して使用の場合は留意のこと。点滴静注を行う場合には注射用水を用いないこと(溶液が等張にならないため)。

・ **配合変化**(輸液中での配合時)：

(1) 本剤はトブラマイシン、ベカナマイシン硫酸塩、ジベカシン硫酸塩との配合により混濁等の変化が認められるので、配合しないこと。

(2) カルシウムを含有する注射剤又は輸液との配合により混濁等の変化が認められたとの報告があるので、配合しないこと。

4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性

●セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」⁶⁾

バイアル品の安定性(加速試験)

セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」(ガラスバイアルに充てんしたもの)について、安定性試験を行った。

その結果、力価試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	白色～淡黄白色の結晶性の粉末であった	同左
浸透圧比	1.4	1.4
確認試験	規格に適合	同左
pH	6.4	6.4
水分	8.5%	8.6%
発熱性物質試験	陰性であった	同左
不溶性異物検査	不溶性異物を認めなかった	同左
不溶性微粒子試験	不溶性微粒子は限度内であり、規格に適合	同左
無菌試験	菌の発育を認めなかった	同左
力価試験 [※]	103.6	102.8

※：表示力価に対する含有率(%)

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」⁷⁾

1) バイアル品の安定性(加速試験)

セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」(ガラスバイアルに充てんしたもの)について、安定性試験を行った。

その結果、力価試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	白色～淡黄白色の結晶性の粉末であった	同左
浸透圧比	1.3	1.3
確認試験	規格に適合	同左
pH	6.6	6.4
純度試験(溶状)	液は淡黄色澄明であった	同左
水分	8.7%	8.2%
発熱性物質試験	陰性であった	同左
不溶性異物検査	不溶性異物を認めなかった	同左
不溶性微粒子試験	不溶性微粒子は限度内であり、規格に適合	同左
無菌試験	菌の発育を認めなかった	同左
力価試験※	95.1	94.0

※：表示力価に対する含有率(%)

2) バイアル品の安定性(長期保存試験)

セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」(ガラスバイアルに充てんしたもの)について、安定性試験を行った。

その結果、力価試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。

保存条件	イニシャル	室温・遮光 3年
性状	微黄白色の結晶性の粉末であった	同左
浸透圧比	1.3	1.3
pH	6.6	6.4
純度試験(溶状)	液は淡黄色澄明であった	同左
水分	8.9%	8.9%
不溶性微粒子試験	不溶性微粒子は限度内であり、規格に適合	同左
力価試験※	101.0	96.4

※：表示力価に対する含有率(%)

6. 溶解後の安定性.....

●セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」⁶⁾

セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」の溶解液[100mg(力価)/mL注射用水]について、室温散光下の保存条件下で24時間保存し、溶解後の安定性試験を行った。

その結果、溶解後24時間程度は安定な製剤であるが、性状について溶解後24時間でわずかに黄色の度合いが増加したため、速やかに使用することが望ましいと考えられた。

IV. 製剤に関する項目

保存条件	イニシャル	室温散光下	
		6時間後	24時間後
性状	液は淡黄色澄明であった	同左	液はやや黄色の増した淡黄色澄明であった
pH	6.4	6.4	6.4
力価試験※	104.0	102.5	102.1

※：表示力価に対する含有率(%)

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」⁷⁾

セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」の溶解液(1バイアルを注射用水10mLで溶解)について、各保存条件下で24時間保存し、溶解後の安定性試験を行った。

その結果、性状の変化及び力価の低下が認められたため、溶解後は速やかに使用することが望ましいと考えられた。

保存条件	イニシャル	室温散光下 24時間後	室温遮光下 24時間後	冷所遮光下 24時間後
性状	液は淡黄色澄明であった	帯赤黄色澄明に変化	微帯赤黄色澄明に変化	変化なし
pH	6.6	6.6	6.6	6.5
力価試験※	98.2	94.8	96.5	100.1

※：表示力価に対する含有率(%)

XIII. 備考「配合変化試験成績」参照⁸⁾

7. 他剤との配合変化(物理化学的变化).....

XIII. 備考「配合変化試験成績」参照⁸⁾

<pH変動試験結果>⁸⁾

含量/容量	規格 pH	試料 pH	外観	(A)0.1mol/L HCl (B)0.1mol/L NaOH	最終pH 又は 変化点pH	移動 指数	変化所見
1g(力価)/ D.W.10mL	6.0~8.0 [100mg(力価)/ D.W.1mL]	6.96	淡黄色 澄明	(A)10mL	4.28	2.68	白色の沈殿 を生じた
				(B)10mL	11.58	4.62	変化なし

配合変化(輸液中での配合時)：

- (1)本剤はトブラマイシン、ベカナマイシン硫酸塩、ジベカシン硫酸塩との配合により混濁等の変化が認められるので、配合しないこと。
- (2)カルシウムを含有する注射剤又は輸液との配合により混濁等の変化が認められたとの報告があるので、配合しないこと。

フィルター通過性試験

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」⁹⁾

セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」のフィルター通過性を確認した。

試験方法

- ①本剤1本を生理食塩液500mLバッグ又は5%ブドウ糖液500mLバッグに直接溶解した。
- ②バッグに輸液ラインを取り付け、流速500mL/hrで液を滴下した。

- ③バッグ中の薬剤濃度を100%とした時の滴下後の液の濃度割合を算出し、その輸液ラインにおける透過率とした。

試験結果

輸液ライン (フィルター材質、孔径)[メーカー]	薬物 濃度	透過率(%)	
		生理食塩液	5%ブドウ糖 溶液
シュアプラグ輸液セット (ポリスルホン製、0.2 μ m)[テルモ]	1 V (1 g) /500mL	98.9	100.2
JMSニトログリセリン用輸液セット成人用 (ポリエーテルスルホン製、0.2 μ m)[JMS]		99.2	100.2
大型輸液フィルター (ポリエーテルスルホン・PVDF製、0.22 μ m) [東レ・メディカル]		100.2	100.4

[測定方法:吸光度測定法]

8. 生物学的試験法

本品の力価は、円筒平板法により、試験菌として *Staphylococcus aureus* ATCC 6538P を用いて測定する。

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

●セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」

- 1) 酸性硫酸アンモニウム鉄(III)試液による呈色反応
- 2) 紫外可視吸光度測定法
- 3) 液体クロマトグラフィー
- 4) ナトリウム塩の定性反応

●セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」

- 1) 酸性硫酸第二鉄アンモニウム試液による呈色反応
- 2) 紫外可視吸光度測定法
- 3) 核磁気共鳴スペクトル測定法
- 4) 炎色反応試験法

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

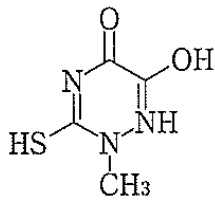
11. 力価

セフトリアキソン(C₁₈H₁₈N₈O₇S₃: 554.58)としての量を質量(力価)で示す。

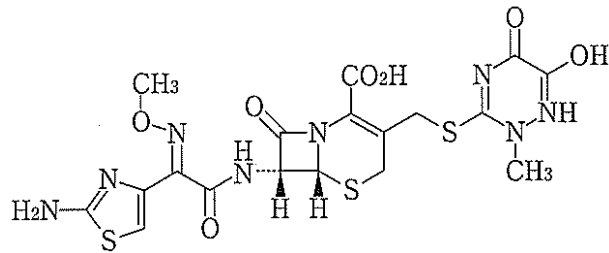
IV. 製剤に関する項目

12. 混入する可能性のある夾雑物

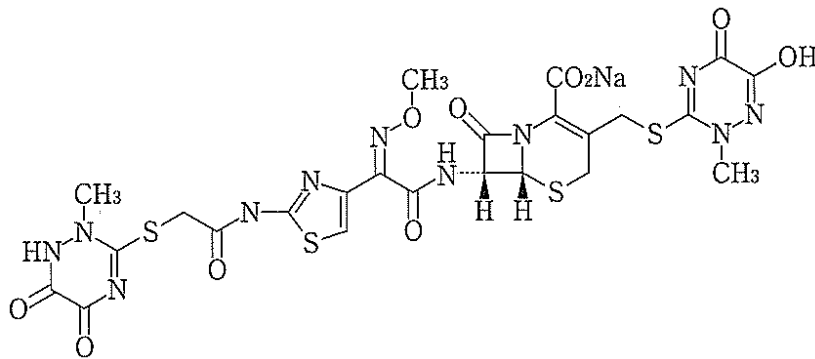
有効成分に混在が予想される類縁物質には次の〔1〕～〔3〕のようなものがある。¹⁾



〔1〕トリアジン化合物



〔2〕メトキシイミノ基の*E*-異性体



〔3〕トリアジン付加体

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

コアリング防止のため、針刺し時はゴム栓の中心部に針を垂直に挿入すること。

14. その他

	バイアル容量
静注用0.5g	約20mL
静注用1g	約16mL

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

〈適応菌種〉

セフトリアキソンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く)

〈適応症〉

敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、精巣上体炎(副睾丸炎)、尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、直腸炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎

＜効能又は効果に関連する使用上の注意＞

咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎への使用にあたっては、「抗微生物薬適正使用の手引き」¹⁰⁾を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

2. 用法及び用量

・成人

- 通常、1日1～2g(力価)を1回又は2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。
- 難治性又は重症感染症には症状に応じて1日量を4g(力価)まで増量し、2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。
- 淋菌感染症については、下記の通り投与する。
 - 咽頭・喉頭炎、尿道炎、子宮頸管炎、直腸炎：
通常、1g(力価)を単回静脈内注射又は単回点滴静注する。
 - 精巣上体炎(副睾丸炎)、骨盤内炎症性疾患：
通常、1日1回1g(力価)を静脈内注射又は点滴静注する。

・小児

- 通常、1日20～60mg(力価)/kgを1回又は2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。
- 難治性又は重症感染症には症状に応じて1日量を120mg(力価)/kgまで増量し、2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。

・未熟児・新生児

- 通常、生後0～3日齢には1回20mg(力価)/kgを1日1回、また、生後4日齢以降には1回20mg(力価)/kgを1日2回静脈内注射又は点滴静注する。
- 難治性又は重症感染症には症状に応じて1回量を40mg(力価)/kgまで増量し、1日2回静脈内注射又は点滴静注する。
ただし、生後2週間以内の未熟児・新生児には1日50mg(力価)/kgまでとする。

V. 治療に関する項目

[静脈内注射]

静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。

[点滴静注]

点滴静注に際しては補液に溶解して用いる。^{注)}

注) 点滴静注を行う場合には、注射用水を用いないこと(溶液が等張にならないため)。また、点滴静注は30分以上かけて静脈内に注射すること。

<用法及び用量に関連する使用上の注意>

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

3. 臨床成績

セフトリアキソンナトリウム製剤の臨床試験成績が以下のとおり報告されている。

1) 臨床データパッケージ

該当しない

2) 臨床効果

セフトリアキソン(125～250mg)の単一用量は、ペニシリナーゼ産生細菌によって引き起こされる疾患を含む、尿道、頸管、直腸、咽頭の淋病の治療に有効であった。¹¹⁾

3) 臨床薬理試験

該当資料なし

4) 探索的試験

該当資料なし

5) 検証的試験

(1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

(2) 比較試験

該当資料なし

(3) 安全性試験

該当資料なし

(4) 患者・病態別試験

該当資料なし

6) 治療的使用

(1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

(2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

セフェム系抗生物質：セフォペラゾンナトリウム、セフトラジジム水和物、セフミノクスナトリウム水和物等

2. 薬理作用

セフトリアキソンナトリウムの薬理作用について以下のとおり報告されている。

1) 作用部位・作用機序

作用機序は細菌細胞壁合成の阻害である。大腸菌においては、ペニシリン結合タンパク(PBP) 3に最も親和性が強く、次いで1a、1b、2の順であり、細胞壁ペプチドグリカン架橋形成を阻害し、殺菌的に作用する。¹⁾

2) 薬効を裏付ける試験成績

●抗菌スペクトラム²⁾

Test strain	MIC (μ g/mL)
	セフトリアキソンNa静注用 1g 「サワイ」
<i>Staphylococcus aureus</i> 209-PJC	3.13
Smith	3.13
Terajima	3.13
Newmann	3.13
No. 80	3.13
<i>Staphylococcus epidermidis</i> ATCC12228	0.78
<i>Micrococcus luteus</i> ATCC9341*	0.05
<i>Bacillus subtilis</i> ATCC6633*	0.39
<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC29212*	12.5
<i>Streptococcus pneumoniae</i> type I	0.025
type II	0.025
type III	0.025
Viridian group <i>Streptococci</i>	50
<i>Streptococcus pyogenes</i> S-23	0.025
C-203	0.025
Cook	0.025
<i>Corynebacterium diphtheriae</i> *	1.56
<i>Escherichia coli</i> NIH JC-2	0.10
NIH	0.013
K-12	0.013
KC-14	0.013
<i>Citrobacter freundii</i> NIH10018-68	0.39
<i>Salmonella typhi</i> T-287*	0.05
<i>Salmonella paratyphi</i> A*	0.025
B*	0.025
<i>Salmonella enteritidis</i> *	0.013
<i>Shigella boydii</i> EW-28*	0.025
<i>Shigella sonnei</i> EW-33*	≤ 0.006
<i>Shigella dysenteriae</i> EW-7*	0.05
<i>Shigella flexneri</i> 2a EW-10*	0.05
<i>Klebsiella pneumoniae</i> NCTC9632	0.013

※：承認適応外菌種 Inoculum size 10^6 cells/mL

Test strain	MIC (μ g/mL)
	セフトリアキソンNa静注用1g 「サワイ」
KC-1	0.025
B-54	0.013
<i>Enterobacter cloacae</i> NCTC9394	0.20
<i>Enterobacter aerogenes</i> NCTC10006	0.05
<i>Hafnia alvei</i> NCTC9540*	0.20
<i>Serratia marcescens</i> IFO3736	0.05
T-55	0.10
<i>Morganella morganii</i> KONO	0.025
<i>Providencia rettgeri</i> NIH96	≤ 0.006
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> E-2*	25
PAO1*	25
<i>Acinetobacter calcoaceticus</i> NCTC7844*	25
Ac-54*	0.39
<i>Proteus vulgaris</i> OX-19	≤ 0.006
<i>Proteus mirabilis</i> 1287	≤ 0.006

※：承認適応外菌種 Inoculum size 10^6 cells/mL

●臨床分離株に対する感受性分布²⁾

Staphylococcus aureus(以下、*S. aureus*)及び*Escherichia coli*(以下、*E. coli*)の臨床分離株についてMIC測定を行った。

1) MSSA (methicillin-susceptible *S. aureus*)

MSSA43株に対するMIC₅₀は3.13 μ g/mL、MIC₉₀は12.5 μ g/mLであった。

2) MRSA (methicillin-resistant *S. aureus*)

MRSA33株に対するMIC₅₀及びMIC₉₀は > 100 μ g/mLであった。

3) *E. coli*

E. coli 27株に対するMIC₅₀は0.05 μ g/mL、MIC₉₀は0.1 μ g/mLであった。

●マウス実験的全身感染モデルに対する治療実験²⁾

S. aureus Smith、*S. pneumoniae* type I 及び*E. coli* EC-14によるマウス実験的全身感染モデルを用いてセフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」及び標準製剤の*in vivo*抗菌活性について評価した。いずれの菌を用いたマウス実験的全身感染モデルにおいても、無治療群と比較して2製剤は用量依存的に生存率を上昇させており、良好な治療効果を示した。また、2製剤の対応する各用量間の生存率に有意な差は認められず、セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」と標準製剤のマウス実験的全身感染モデルに対する治療効果は同等と考えられた。

3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

セフトリアキソンナトリウム製剤の薬物動態について以下のとおり報告されている。

1. 血中濃度の推移・測定法
 - 1) 治療上有効な血中濃度
該当資料なし
 - 2) 最高血中濃度到達時間
該当資料なし
 - 3) 臨床試験で確認された血中濃度
該当資料なし
 - 4) 中毒域
該当資料なし
 - 5) 食事・併用薬の影響
VIII. -7. 参照
 - 6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因
該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ
 - 1) 解析方法
該当資料なし
 - 2) 吸収速度定数
該当しない
 - 3) バイオアベイラビリティ
該当資料なし
 - 4) 消失速度定数
該当資料なし
 - 5) クリアランス
該当資料なし
 - 6) 分布容積
該当資料なし

7) 血漿蛋白結合率

ヒト血清たん白結合率は、100 μ g/mLの平衡透析で93%と高い結合が認められた。¹⁾

3. 吸収

該当しない

4. 分布

1) 血液—脳関門通過性

該当資料なし

2) 血液—胎盤関門通過性

胎盤関門通過性：あり⁴⁾

3) 乳汁への移行性

ヒト母乳中へ低濃度移行することが報告されている。

4) 髄液への移行性

VII. -4. -5) 参照

小児の髄膜炎患者に50mg(力価)/kgを点滴静注するとき、平均で約7 μ g/mLの髄液内濃度が認められた。¹⁾

5) その他の組織への移行性

点滴静注により0.5g(力価)を投与するとき、3～8時間後の喀痰中に0.6～2.5 μ g/mLの移行が認められた。胆汁中移行は0.5～13.2%であり、髄液、骨盤死腔液、羊水などへ良好な移行が認められた。¹⁾

5. 代謝

1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当しない

4) 代謝物の活性の有無及び比率

ヒト尿中には活性代謝物を認めない。¹⁾

VII. 薬物動態に関する項目

5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

1) 排泄部位及び経路

セフトリアキソンのおよそ半分は尿中に排泄され、残りは、胆汁分泌によって排泄される。¹⁾

2) 排泄率

尿中排泄は緩徐であり、1 gを投与12時間までの尿中には40%、48時間までには55%の排泄が認められた。9回連続投与でも、12時間までの尿中排泄率は40~60%であり、蓄積性は認められなかった。¹⁾

3) 排泄速度

VII. -6. -2) 参照

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

腹膜透析や血液透析では除去されない。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由……………
該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)……………

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 高ビリルビン血症の未熟児、新生児(「小児等への投与」の項参照)

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)

セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由……………
V. -1. 参照

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由……………
V. -2. 参照

5. 慎重投与内容とその理由……………

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者
- 3) 高度の腎障害のある患者〔高度の腎機能障害患者は、本剤が過剰に蓄積する可能性があるため、血中濃度を頻回に測定できない場合には投与量が1g/日を超えないようにすること。〕
- 4) 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、高齢者、全身状態の悪い患者〔ビタミンK欠乏症状があらわれることがあるので観察を十分に行うこと。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法……………

重要な基本的注意

- 1) 本剤による**ショック、アナフィラキシー**の発生を確実に予知できる方法がないので、次の措置をとること。
 - (1) 事前に既往歴等について十分な問診を行うこと。なお、抗生物質等によるアレルギー一歴は必ず確認すること。
 - (2) 投与に際しては、必ずショック等に対する救急処置のとれる準備をしておくこと。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

(3) 投与開始から投与終了後まで、患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。
特に、投与開始直後は注意深く観察すること。

2) 本剤を投与する場合は、カルシウムを含有する注射剤又は輸液と同時に投与しないこと。
〔国外において、新生児に本剤とカルシウムを含有する注射剤又は輸液を同一経路から同時に投与した場合に、肺、腎臓等に生じたセフトリアキソンを成分とする結晶により、死亡に至った症例が報告されている(「適用上の注意」の項参照)。〕

7. 相互作用

1) 併用禁忌とその理由

該当しない

2) 併用注意とその理由

併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
利尿剤 フロセミド等	類似化合物(他のセフェム系抗生物質)で併用による腎障害増強作用が報告されている。腎機能に注意すること。	機序は不明であるが、利尿時の脱水による血中濃度の上昇等が考えられる。

8. 副作用

1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

2) 重大な副作用と初期症状

- 1) 重大な副作用(頻度不明)
- (1) **ショック、アナフィラキシー**：ショック症状を起こすことがあるので観察を十分に行い、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗、呼吸困難、顔面浮腫等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - (2) **汎血球減少、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、溶血性貧血**：汎血球減少、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、溶血性貧血があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - (3) **劇症肝炎、肝機能障害、黄疸**：劇症肝炎等の重篤な肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - (4) **急性腎障害、間質性腎炎**：急性腎障害、間質性腎炎があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
 - (5) **偽膜性大腸炎**：偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎があらわれることがあるので、腹痛、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- (6) 中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis : TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症：中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (7) 間質性肺炎、肺好酸球増多症(PIE症候群)：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多を伴う間質性肺炎、肺好酸球増多症(PIE症候群)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (8) 胆石、胆嚢内沈殿物：セフトリアキソンを成分とする胆石、胆嚢内沈殿物が投与中あるいは投与後にあらわれ、胆嚢炎、胆管炎、膵炎等を起こすことがあるので、腹痛等の症状があらわれた場合には投与を中止し、速やかに腹部超音波検査等を行い、適切な処置を行うこと。なお、多くの症例は小児の重症感染症への大量投与例で見られている。
- (9) 腎・尿路結石：セフトリアキソンを成分とする腎・尿路結石が投与中あるいは投与後にあらわれ、尿量減少、排尿障害、血尿、結晶尿等の症状や腎後性急性腎不全が起きたとの国外報告がある。このような症状が認められた場合には投与を中止し、速やかに適切な処置を行うこと。
- (10) 精神神経症状：意識障害(意識消失、意識レベルの低下等)、痙攣、不随意運動(舞踏病アテトーゼ、ミオクローヌス等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。これらの症状は、高度腎障害患者での発現が多数報告されている。

3) その他の副作用

2) その他の副作用

次のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過 敏 症 ^{注1)}	発疹、蕁麻疹、発熱、発赤、そう痒、紅斑
血 液 ^{注2)}	好酸球増多、顆粒球減少、貧血、好塩基球増多、血小板増多、異常プロトロンビン
消 化 器	嘔気、下痢、軟便、嘔吐、腹痛、食欲不振
菌 交 代 症	口内炎、カンジダ症
ビ タ ミ ン 欠 乏 症 ^{注3)}	ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症、出血傾向)、ビタミンB群欠乏症状(舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎)
そ の 他	注射部位反応(紅斑、疼痛、腫脹等)、頭痛、浮腫、心室性期外収縮

注1) 投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注2) 定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注3) 経口での食事摂取不良の患者、高齢者、衰弱している患者に投与する場合にあらわれやすいので観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

セフトリアキソンナトリウム製剤(同剤形)の副作用が以下のとおり報告されている。

副作用発現率は4.37%(662/15,149)であり、主な副作用はAST(GOT)上昇1.58%、ALT(GPT)上昇1.58%、Al-P上昇0.61%、発疹0.57%、下痢0.53%等であった。¹²⁾

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)

セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者

重要な基本的注意

- 1) 本剤による**ショック、アナフィラキシー**の発生を確実に予知できる方法がないので、次の措置をとること。
(1) 事前に既往歴等について十分な問診を行うこと。なお、抗生物質等によるアレルギー歴は必ず確認すること。
(2) 投与に際しては、必ず**ショック**等に対する救急処置のとれる準備をしておくこと。
(3) 投与開始から投与終了後まで、患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。特に、投与開始直後は注意深く観察すること。

副作用

1) **重大な副作用**(頻度不明)

- (1) **ショック、アナフィラキシー**：ショック症状を起こすことがあるので観察を十分に行い、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗、呼吸困難、顔面浮腫等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) **その他の副作用**

次のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過 敏 症 <small>注1)</small>	発疹、蕁麻疹、発熱、発赤、そう痒、紅斑

注1) 投与を中止し、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

高齢者には、次の点に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

- 1) 高齢者では生理機能が低下していることが多い。
2) 高齢者ではビタミンK欠乏による出血傾向があらわれることがある。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- 2) 授乳婦に投与する場合には授乳を避けさせることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には乳児等の状態を観察しながら慎重に投与すること。[ヒト母乳中へ低濃度移行することが報告されている(「小児等への投与」の項参照)。]

11. 小児等への投与

高ビリルビン血症の未熟児、新生児には投与しないこと。[*in vitro*の実験で、セフトリアキソンは他のセファロスポリン系薬剤と同様に血清アルブミンと結合しているビリルビンを遊離させることが報告されている。さらに未熟児、新生児は血液脳関門が未熟なため遊離ビリルビンが脳内へ移行し核黄疸をおこすおそれがある。]

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

- 1) テステープ反応を除くベネディクト試薬、フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈することがあるので注意すること。
- 2) 直接クームス試験陽性を呈することがあるので注意すること。
- 3) キノプロテイングルコースデヒドロゲナーゼ(変異型)酵素比色法を用いた血糖測定法では、偽低値を呈することがあるので注意すること。

13. 過量投与

本剤は、腹膜透析や血液透析では除去されないので、過量投与した患者に対しては注意深く観察し対症療法を行うこと。

14. 適用上の注意

- 1) **投与速度**：静脈内大量投与により、まれに血管痛、血栓性静脈炎、ほてり感、嘔気、嘔吐を起こすことがあるので注射速度はできるだけ遅くすること。また、点滴静注は30分以上かけて静脈内に注射すること。
- 2) **調製方法**：溶解後は速やかに使用すること。特にグルタチオン製剤、高濃度アミノ酸類の補液に溶解して使用の場合は留意のこと。点滴静注を行う場合には注射用水を用いないこと(溶液が等張にならないため)。
- 3) **配合変化(輸液中での配合時)**：
 - (1) 本剤はトブラマイシン、ベカナマイシン硫酸塩、ジベカシン硫酸塩との配合により混濁等の変化が認められるので、配合しないこと。
 - (2) カルシウムを含有する注射剤又は輸液との配合により混濁等の変化が認められたとの報告があるので、配合しないこと。

15. その他の注意

該当しない

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

16. その他.....

IX. 非臨床試験に関する項目

セフトリアキソンナトリウムの非臨床試験成績について以下のとおり報告されている。

1. 薬理試験

1) 薬効薬理試験(「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

2) 副次的薬理試験

該当資料なし

3) 安全性薬理試験

該当資料なし

4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

1) 単回投与毒性試験

LD₅₀ (mg/kg)¹³⁾

動物種	性	経口	皮下注	静脈内
マウス	♀	10,000以上	5,000以上	2,800
ラット	—	10,000以上	5,000以上	2,175

2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

3) 生殖発生毒性試験

586mg/kg/日まで1日投与量を上げて、ラットに静注した場合、生殖能力に全く障害は現われなかった。¹⁴⁾

4) その他の特殊毒性

変異原性

遺伝に関する毒性試験は試験管内において、セフトリアキソンナトリウムの存在下で培養したヒトのリンパ球におけるエームス試験、小核試験、染色体異常についての試験が実施された。セフトリアキソンナトリウムは、これらの研究において変異原性を全く示さなかった。¹⁴⁾

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

	規制区分
製剤	処方箋医薬品 ^{注)}
有効成分	該当しない

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年

3. 貯法・保存条件

遮光室温保存

本剤は光、熱によって徐々に着色することがあるので、保存には注意すること

4. 薬剤取扱い上の注意点

1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

2) 薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

くすりのしおり：有り

3) 調剤時の留意点について

VIII. -14. 参照

溶解時の注意

注射針はゴム栓中央の円内に垂直に刺して下さい。

両頭針又は両頭針付き溶解液を使用する場合、両頭針を斜めに刺したり、ゴム栓の中心を外れて周辺に刺しますと、ゴム栓が内に脱落する原因になりますのでご注意下さい。

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

10バイアル

7. 容器の材質

瓶：無色透明のガラス
 キャップ：ポリプロピレン、アルミニウム
 ゴム栓：ゴム

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ロセフィン静注用0.5g/静注用1g/点滴静注用1gバッグ
 同効薬：セフェム系抗生物質製剤：セフォペラゾンナトリウム、セフトラジジム水和物、セフミノクスナトリウム水和物等

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

- セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」
 製造販売承認年月日：2012年2月6日(販売名変更)、承認番号：22400AMX00137000
 セロニード静注用0.5g(旧販売名)
 製造販売承認年月日：2009年7月13日、承認番号：22100AMX01881000
- セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」
 製造販売承認年月日：2012年2月6日(販売名変更)、承認番号：22400AMX00136000
 セロニード静注用1g(旧販売名)
 製造販売承認年月日：2002年3月12日、承認番号：21400AMZ00282000

11. 薬価基準収載年月日

- セフトリアキソンNa静注用0.5g「サワイ」：2012年6月22日(販売名変更)
 セロニード静注用0.5g(旧販売名)：2009年11月13日
 経過措置期間終了：2013年3月31日
- セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」：2012年6月22日(販売名変更)
 セロニード静注用1g(旧販売名)：2002年7月5日
 経過措置期間終了：2013年3月31日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

- セロニード静注用1g(旧販売名)
 承認年月日：2009年4月23日
 用法・用量内容：小児への1日1回投与の用法・用量を追加した。

X. 管理的事項に関する項目

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

●セロニード静注用1g(旧販売名)

再評価結果公表年月日：2004年9月30日

再評価結果の内容：適応菌種が整理され、適応症が読み替えられた。また、淋菌感染症(精巣上体炎(副睾丸炎)、尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、直腸炎)が追加になり、用法・用量も変更された。

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

品名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
セフトリアキソンNa 静注用0.5g「サワイ」	119672601	6132419F1119	621967202
セフトリアキソンNa 静注用1g「サワイ」	114886201	6132419F2018	621488601

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日本薬局方解説書編集委員会編, 第十七改正 日本薬局方解説書, 廣川書店, 2016, C-2770 -C-2778.
- 2) 徳永哲洋他, 薬理と治療, **33**(12), 1185(2005).
- 3) 松崎薫他, 医学と薬学, **56**(2), 207(2006).
- 4) 大阪府病院薬剤師会編, 医薬品要覧, 第5版, じほう, 1992, p.1946-1947, p.2041.
- 5) 平田純生他編, 透析患者への投薬ガイドブック 慢性腎臓病(CKD)の薬物治療, 改訂3版, じほう, 2017, p.771-772.
- 6)～7) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験]
- 8) 沢井製薬(株) 社内資料[配合変化試験成績]
- 9) 沢井製薬(株) 社内資料[フィルター通過性試験]
- 10) 厚生労働省健康局結核感染症課編: 抗微生物薬適正使用の手引き
- 11) 高折修二他監訳, グッドマン・ギルマン薬理書, 第12版, 廣川書店, 2013, p.1931.
- 12) 厚生省薬務局, 平成6年度 新医薬品等の副作用のまとめ, 1996, p.53-54.
- 13) 薬事研究会編, 規制医薬品事典, 第5版, じほう, 1992, p.270.
- 14) 社会薬学研究会監修, 処方医薬品情報事典 PDR日本語編纂版, 産業調査会事典出版センター, 1999, p.970-977.

2. その他の参考文献

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況
2. 海外における臨床支援情報
- 該当資料なし

XIII. 備考

その他の関連資料

配合変化試験成績⁸⁾

<配合方法>

セフトリアキソンNa静注用 1g「サワイ」(以下、当社製剤)と他剤を配合し、外観、pHおよび含量を測定した。

含量は配合直後のセフトリアキソンナトリウム量を100%とし、()に表示力価に対する含有率を%で示した。

A：当社製剤を直接輸液類に混合した。

B：当社製剤を注射用水で溶解し、輸液類に混合した。

C：当社製剤を注射用水で溶解し、配合薬剤と混合した。

D：当社製剤を注射用水で溶解し、あらかじめ注射用水、添付溶解液又は生理食塩液で溶解した配合薬剤と混合した。

E：当社製剤を複数の配合薬剤と混合した。

(保存条件) 温度：1～30℃(室温) 時間：24時間 貯法：密栓、散光下

<略号>

D.W.：注射用水 sol.：添付溶解液 sal.：生理食塩液

※2020年10月作成の配合変化試験成績を掲載した。

セフトリアキソンNa静注用0.5g/1g「サワイ」 配合変化試験成績

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	試験 項目	配合結果					
	品名 (配合前の外観、pH)	成分名または 分類名	配合量				配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後
輸液	大塚生食注 外観：無色澄明 pH：6.06	生理食塩液	100mL	1g(力価)	A	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.41	6.45	6.44	6.46	6.46	6.52
						含量(%)	100.0(101.5)	99.5	99.9	100.2	98.7	98.3
	大塚生食注 外観：無色澄明 pH：6.04	生理食塩液	100mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.39	6.41	6.43	6.43	6.45	6.55
						含量(%)	100.0(100.1)	99.5	99.8	100.7	100.8	99.2
	大塚糖液5% 外観：無色澄明 pH：4.81	ブドウ糖	100mL	1g(力価)	A	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.48	6.51	6.53	6.54	6.54	6.61
						含量(%)	100.0(100.6)	99.6	99.9	99.3	99.0	99.0
	大塚糖液5% 外観：無色澄明 pH：4.82	ブドウ糖	100mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.48	6.50	6.50	6.52	6.55	6.61
						含量(%)	100.0(100.6)	100.4	99.7	98.7	99.6	97.7
プラスアミノ輸液 外観：無色澄明 pH：4.55	総合アミノ酸 製剤(ブドウ糖加)	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	—	無色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	
					pH	4.61	4.61	—	4.62	4.63	4.64	
					含量(%)	100.0(93.8)	98.6	—	91.6	85.3	59.9	
アミバレン輸液 外観：無色澄明 pH：6.93	高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤	400mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	—	無色澄明	無色澄明	無色澄明	
					pH	6.94	6.95	—	6.96	6.97	6.90	
					含量(%)	100.0(93.6)	99.3	—	97.1	93.3	76.9	
ソリターT1号輸液 外観：無色澄明 pH：5.51	開始液	500mL	1g(力価)	A	外観	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	微黄色澄明	
					pH	5.69	5.69	5.69	5.70	5.71	5.70	
					含量(%)	100.0(101.7)	99.6	99.4	99.3	98.1	98.8	
ソリターT1号輸液 外観：無色澄明 pH：5.50	開始液	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	無色澄明	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	
					pH	5.70	5.70	5.68	5.68	5.69	5.72	
					含量(%)	100.0(101.2)	99.4	98.9	98.6	97.8	93.2	
KN3号輸液† [旧販売名：KN補液3B] 外観：微黄色澄明 pH：5.49	維持液	190mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	微黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	
					pH	5.78	5.78	5.78	5.79	5.77	5.84	
					含量(%)	100.0(103.6)	—	—	—	96.6	95.0	
KN3号輸液 外観：無色澄明 pH：5.48	維持液	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	—	無色澄明	無色澄明	無色澄明	
					pH	5.63	5.64	—	5.64	5.65	5.67	
					含量(%)	100.0(95.2)	100.4	—	99.6	98.3	92.9	
ソリターT3号輸液 外観：無色澄明 pH：5.48	維持液	500mL	1g(力価)	A	外観	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	微黄色澄明	
					pH	5.66	5.67	5.67	5.68	5.68	5.68	
					含量(%)	100.0(101.6)	99.8	99.4	99.0	97.2	92.0	
ソリターT3号輸液 外観：無色澄明 pH：5.47	維持液	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	無色澄明	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	
					pH	5.68	5.68	5.66	5.66	5.68	5.69	
					含量(%)	100.0(100.4)	99.5	99.8	99.4	98.3	93.2	
フィジオゾール3号輸液 外観：無色澄明 pH：4.63	維持液	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	—	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	
					pH	4.78	4.78	—	4.77	4.81	4.79	
					含量(%)	100.0(94.0)	98.3	—	95.5	89.9	72.7	
アクチット輸液† [旧販売名：アクチット注] 外観：無色澄明 pH：5.39	酢酸維持液	500mL	1g(力価)	A	外観	極微黄色澄明	極微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	微黄色澄明	
					pH	5.45	5.46	5.46	5.46	5.45	5.47	
					含量(%)	100.0(100.3)	100.3	98.2	98.5	97.9	91.7	
アクチット輸液† [旧販売名：アクチット注] 外観：無色澄明 pH：5.40	酢酸維持液	500mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	無色澄明	極微黄色澄明	極微黄色澄明	微黄色澄明	
					pH	5.45	5.46	5.47	5.47	5.46	5.46	
					含量(%)	100.0(98.1)	97.4	100.9	99.9	99.4	92.5	
大塚蒸留水 外観：無色澄明 pH：5.55	注射用水	100mL	1g(力価)/ D.W.10mL	B	外観	無色澄明	無色澄明	—	極微黄色澄明	極微黄色澄明	微黄色澄明	
					pH	6.54	6.58	—	6.59	6.60	6.70	
					含量(%)	100.0(94.1)	—	—	—	—	96.5	

† 旧販売名の製剤で試験を実施した

—：試験未実施

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	試験 項目	配合結果					
	品名 (配合前の外観、pH)	成分名または 分類名	配合量				配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後
強心剤	イノバン注100mg 外観：無色澄明 pH：4.22	ドパミン塩酸塩	100mg/ 5 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	無色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.33	6.38	—	6.41	6.47	6.60
						含量(%)	100.0(94.3)	—	—	—	—	96.0
利尿剤	ソルダクトン静注用200mg [†] [旧販売名：ソルダクトン200mg] 外観：微黄色澄明 pH：9.51	カンレノ酸カリウム	200mg/ D.W.20mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡橙色澄明
						pH	8.82	8.76	8.72	8.66	8.56	8.34
						含量(%)	100.0(98.4)	—	—	—	—	94.8
利尿剤	カンレノ酸カリウム静注用200mg「サワイ」 外観：淡黄色澄明 pH：9.26	カンレノ酸カリウム	200mg/ D.W.20mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色微濁	淡黄色微濁	淡褐色微濁
						pH	7.78	7.84	—	7.93	8.02	8.07
						含量(%)	100.0(93.4)	101.5	—	—	—	100.2
利尿剤	ラシックス注20mg* 外観：無色澄明 pH：9.04	フロセミド	20mg/ 2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄褐色澄明
						pH	6.80	6.79	—	6.80	6.83	6.91
						含量(%)	100.0(91.5)	—	—	—	—	98.0
去たん剤	ピソルボン注4mg 外観：無色澄明 pH：2.67	ブロムヘキシン塩酸塩	4mg/ 2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.02	6.05	—	6.06	6.10	6.22
						含量(%)	100.0(91.6)	—	—	—	—	95.7
消化性潰瘍用剤	タガメット注射液200mg 外観：無色澄明 pH：5.44	シメチジン	200mg/ 2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	黄色澄明	黄色澄明
						pH	6.08	6.15	—	6.15	6.16	6.27
						含量(%)	100.0(94.4)	—	—	—	—	95.5
消化性潰瘍用剤	シメチジン注射液200mg「サワイ」 外観：無色澄明 pH：5.37	シメチジン	200mg/ 2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	黄色澄明	黄色澄明
						pH	6.02	6.05	—	6.09	6.13	6.23
						含量(%)	100.0(91.8)	—	—	—	—	95.2
消化性潰瘍用剤	ガスター注射液20mg 外観：無色澄明 pH：5.99	ファモチジン	20mg/ 2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	黄褐色澄明
						pH	6.57	6.59	—	6.63	6.67	6.69
						含量(%)	100.0(90.1)	—	—	—	—	99.0
消化性潰瘍用剤	ファモチジン注射液20mg「サワイ」 外観：無色澄明 pH：5.26	ファモチジン	20mg/ sal.20mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	黄色澄明
						pH	6.29	6.31	—	6.33	6.35	6.44
						含量(%)	100.0(93.9)	—	—	—	—	99.3
副腎ホルモン剤	ソル・メドロール静注用125mg 外観：無色澄明 pH：7.53	メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム	125mg/ sol.2 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	黄褐色澄明
						pH	7.28	7.28	—	7.30	7.25	7.17
						含量(%)	100.0(95.7)	—	—	—	—	96.7
混色薬液	ネオラミン・スリーピー液(静注用) 外観：紅色澄明 pH：3.55	チアミンジスルフィド・ピリドキシン塩酸塩・ヒドロキシコバラミン	10mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	赤色澄明	赤色澄明	—	赤色澄明	赤色澄明	暗赤色澄明
						pH	5.05	5.04	—	5.05	5.09	5.17
						含量(%)	100.0(91.2)	99.6	—	96.8	94.0	80.7
止血剤	アドナ注(静脈用)50mg 外観：橙色澄明 pH：5.81	カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	50mg/ 10mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	橙色澄明	橙色澄明	—	橙色澄明	橙色澄明	橙色澄明
						pH	6.17	6.22	—	6.20	6.23	6.29
						含量(%)	100.0(91.9)	—	—	—	—	94.8
解毒剤	タチオン注射用200mg 外観：無色澄明 pH：5.68	グルタチオン	200mg/ D.W.3 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明
						pH	6.37	6.37	—	6.37	6.40	6.50
						含量(%)	100.0(93.4)	90.1	—	80.8	74.7	68.5
代謝性医薬品	注射用エフォーワイ100 [†] [旧販売名：注射用エフォーワイ] 外観：無色澄明 pH：5.07	ガベキサートメシル酸塩	100mg/ D.W.5 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	黄色、沈殿
						pH	6.81	6.82	6.79	6.79	6.79	6.73
						含量(%)	—	—	—	—	—	—
代謝性医薬品	ガベキサートメシル酸塩注射用100mg「サワイ」 外観：無色澄明 pH：4.82	ガベキサートメシル酸塩	100mg/ D.W.5 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	微黄色、沈殿	黄色、沈殿
						pH	6.82	6.83	6.80	6.79	6.80	6.74
						含量(%)	—	—	—	—	—	—
代謝性医薬品	注射用フサン10 [†] [旧販売名：注射用フサン] 外観：無色澄明 pH：3.22	ナファモスタットメシル酸塩	10mg/ D.W.1 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	黄色懸濁
						pH	6.31	6.36	6.32	6.31	6.38	6.50
						含量(%)	—	—	—	—	—	—
代謝性医薬品	ナファモスタット注射用10mg「SW」 外観：無色澄明 pH：3.00	ナファモスタットメシル酸塩	10mg/ D.W.1 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	淡黄色懸濁	黄色懸濁
						pH	6.72	6.74	6.71	6.70	6.75	6.80
						含量(%)	—	—	—	—	—	—

[†] 旧販売名の製剤で試験を実施した

—：試験未実施

* 併用注意薬剤です。詳細は製品添付文書をご参照ください。

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	試験 項目	配合結果					
	品名 (配合前の外観、pH)	成分名または 分類名	配合量				配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後
抗 生 物 質 製 剤	ダラシンS注射液600mg 外観：無色澄明 pH：6.46	クリンダマイ シンリン酸エ ステル	600mg(力価)/ 4 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄褐色澄明
						pH	6.69	6.70	—	6.70	6.70	6.66
						含量(%)	100.0(91.5)	100.9	—	100.4	100.4	97.9
	クリンダマイシンリン酸 エステル注射液600mg「サワイ」 外観：無色澄明 pH：6.48	クリンダマイ シンリン酸エ ステル	600mg(力価)/ 4 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	淡黄褐色澄明
						pH	6.67	6.66	—	6.68	6.68	6.62
						含量(%)	100.0(91.5)	100.0	—	100.3	99.9	97.2
	アマカシン硫酸塩注射液 100mg「日医工」 外観：無色澄明 pH：6.85	アマカシン硫 酸塩	100mg(力価)/ 1 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	帯黄褐色澄明
						pH	6.87	6.87	—	6.86	6.86	6.82
						含量(%)	100.0(98.8)	—	—	—	—	92.0
	アマカシン硫酸塩注射液 100mg「サワイ」 外観：無色澄明 pH：6.72	アマカシン硫 酸塩	100mg(力価)/ 1 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	C	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄褐色澄明
						pH	6.76	6.80	—	6.80	6.78	6.77
						含量(%)	100.0(96.6)	—	—	—	—	92.2
ペントシリン注射用1g 外観：無色澄明 pH：5.61	ピペラシリン ナトリウム	1g(力価)/ D.W.10mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	黄色澄明	
					pH	6.42	6.41	—	6.40	6.39	6.28	
					含量(%)	100.0(96.9)	—	—	—	—	96.9	
ピペラシリンNa注射用1g 「サワイ」 外観：無色澄明 pH：5.79	ピペラシリン ナトリウム	1g(力価)/ D.W.10mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	淡黄色澄明	淡黄色澄明	—	淡黄色澄明	淡黄色澄明	黄色澄明	
					pH	6.47	6.45	—	6.44	6.41	6.25	
					含量(%)	100.0(95.7)	—	—	—	—	100.7	
セファメジンα注射液1g 外観：無色澄明 pH：5.35	セファゾリン ナトリウム水 和物	1g(力価)/ D.W.10mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄色澄明	
					pH	6.34	6.33	—	6.31	6.32	6.36	
					含量(%)	100.0(91.3)	—	—	—	—	93.7	
ホスミシンS静注用2g 外観：無色澄明 pH：7.38	ホスホマイシン ナトリウム	2g(力価)/ D.W.20mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	微黄色澄明	微黄色澄明	—	微黄色澄明	微黄色澄明	淡黄褐色澄明	
					pH	7.37	7.39	—	7.39	7.41	7.15	
					含量(%)	100.0(94.6)	—	—	—	—	96.8	
ミノマイシン点滴静注用100mg 外観：黄色澄明 pH：2.33	ミノサイクリ ン塩酸塩	100mg(力価)/ D.W.5 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	黄色澄明	黄色澄明	—	黄色澄明	黄褐色澄明	黄褐色澄明	
					pH	5.05	5.08	—	5.09	5.11	5.12	
					含量(%)	100.0(93.1)	98.1	—	97.1	94.3	81.5	
ミノサイクリン塩酸塩点滴 静注用100mg「サワイ」 外観：黄色澄明 pH：2.45	ミノサイクリ ン塩酸塩	100mg(力価)/ D.W.5 mL	1g(力価)/ D.W.10mL	D	外観	黄色澄明	黄色澄明	—	黄色澄明	黄褐色澄明	黄褐色澄明	
					pH	5.09	5.10	—	5.12	5.14	5.14	
					含量(%)	100.0(91.4)	98.7	—	97.6	94.8	82.1	

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	試験 項目	配合結果					
	品名	成分名または 分類名	配合量				配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後
多 剤 配 合	ソリター-T3号輸液† [旧販売名：ソリター-T3号]	維持液	500mL	1g(力価)	E	外観	無色澄明	微黄色澄明	—	—	—	淡黄色澄明
	ブスコパン注20mg† [旧販売名：ブスコパン注射液]	ブチルスコポ ラミン臭化物	20mg/ 1 mL			pH	5.32	5.33	—	—	—	5.32
						含量(%)	100.0(95.6)	99.2	—	—	—	84.9
ソリター-T3号輸液† [旧販売名：ソリター-T3号]	維持液	500mL	1g(力価)	E	外観	無色澄明	微黄色澄明	—	—	—	淡黄色澄明	
ネオフィリン注250mg† [旧販売名：ネオフィリン注]	アミノフィリ ン水和物	250mg/ 10mL			pH	8.08	8.06	—	—	—	7.92	
					含量(%)	100.0(94.1)	100.0	—	—	—	94.3	
ソリター-T3号輸液† [旧販売名：ソリター-T3号]	維持液	500mL	1g(力価)	E	外観	無色澄明	微黄色澄明	—	—	—	淡黄色澄明	
プリンペラン注射液10mg	塩酸メトクロ プラミド	10mg/ 2 mL			pH	5.27	5.27	—	—	—	5.33	
					含量(%)	100.0(92.1)	98.8	—	—	—	86.9	

† 旧販売名の製剤で試験を実施した

—：試験未実施

